



大阪公立大学共同出版会

No.23

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

- ・第6回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告
常務理事 小股 憲明 …… 1
- ・第22回 OMUPサロン 盛会のうちに終わる …… 2
- ・自著を語る (4)
「文物の儀ここに備われり 日本文明の源流を探る」の執筆動機
兄玉 典弥 …… 3
「環境容量からみた日本の未来可能性」
ー低炭素・低リスク社会への47都道府県3D-GIS MAPー
大西 文秀 …… 4

- ・新刊書の紹介 …… 2, 4, 5
- ・装いも新たにパンフレット「読ン得本々」の刊行!! …… 5
- ・第23回 OMUPサロンのお知らせ …… 5
- ・電子書籍時代の学術出版のススメ …… 6
- ・大阪公立大学共同出版会事務局より …… 6
- ・編集後記 …… 6

第6回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告

常務理事 小股 憲明

去る6月25日午後2時00分から3時00分まで、大阪府立大学中もずキャンパスA14棟2F会議室において、特定非営利活動法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)の総会が開催された。総会成立の確認、議長選出(理事長三田朝義氏を選出)、議事録署名人の選出(常務理事足立泰二、同小股憲明を選出)の後、平成22年度事業報告・決算、平成23年度事業計画・予算、その他が審議された。その審議概要は、以下の通りである。

1. 平成22年度事業報告及び決算報告についての承認

事業報告とあわせて、植田英三郎監事、田畑理一監事による会計監査により「適法かつ正確」とであると認められた「収支計算書総括表(第5期 平成22年4月1日～平成23年3月31日)」が、満場一致で承認された(決算報告については表1参照)。

なお、植田英三郎監事から「業務の執行状況について」、以下のご指摘を頂いたことが報告された。

- 1) 当期間の出版点数は前年より減少している。大学建屋の無償提供を受けている立場を考慮した場合、大阪公立大学法人内の出版ニーズを捉える努力が必要と思われる。学内の出版ニーズに適正に対応すると共に促進活動が求められる。
- 2) 昨年の監査報告で指摘の運営体制については、次年度において早期に具体的な改革が求められる。
- 3) 新任の常務理事候補に発注先法人代表者名があり、妥当

表1 平成22年度決算書および平成23年度予算書 (単位: 円)

科 目	H22決算額	H23予算額	差 異
事業収入			
書籍売上	3,466,780	4,000,000	533,220
出版収入 著者負担	4,984,231	5,000,000	15,769
〃 大学負担・出版助成等	3,519,810	5,000,000	1,480,190
寄付金収入			0
入会金収入	50,000	50,000	0
その他の収入			
受取利息	870	0	- 870
雑収入	891,536	0	- 891,536
当期収入合計	12,913,227	14,050,000	1,136,773
売上原価			
期首商品棚卸	1,977,777	648,500	- 1,329,277
製作費	4,586,356	6,000,000	1,413,644
運送・発送費	75,137	80,000	4,863
編集デザイン料	971,306	1,000,000	28,694
期末商品	- 648,500	0	648,500
管理費			
雑給	2,355,541	2,500,000	144,459
福利厚生費	2,880	5,000	2,120
業務委託費	628,575	1,000,000	371,425
旅費交通費	327,463	330,000	2,537
通信費	81,991	100,000	18,009
交際費	80,000	80,000	0
会議費	55,963	50,000	- 5,963
水道光熱費	0	20,000	20,000
著者清算	1,337,280	1,500,000	162,720
消耗品費	87,620	100,000	12,380
事務用品費	65,759	70,000	4,241
広告宣伝	44,021	50,000	5,979
支払手数料	140,561	150,000	9,439
新聞図書費	3,662	5,000	1,338
諸会費	10,000	10,000	0
法人税等	280,372	300,000	19,628
当期支出合計	12,481,704	13,998,500	1,516,796
当期収支差額	431,523	51,500	- 380,023

性について慎重な検討が必要と思われる。

2. 平成22年度事業計画及び予算書

平成23年度予算は表1の通りで、平成23年度事業計画とあわせて、満場一致で可決された。

3. 役員の選出

本年は役員の改選期に当たっているため、以下の通り提案され、満場一致で可決された。前年度からの変更点は、常務理事に金井一弘氏が加わったこと、および監事の植田英三郎氏が辞任され山本浩二氏が就任されたことであり、その他の役員はすべて再任である。

なお、金井一弘氏の常務理事就任については、植田英三郎監事より上記3)の指摘があって慎重に検討したが、OMUPから星湖舎への発注をすべて廃止し、金井常務理事に対して定款第19条第2項の規定によって役員報酬を支払うこととなった。役員報酬規定の定めにより、報酬額は常務理事会において決定し、支払った報酬額については次年度の総会に報告されることとなっている。

理 事 長 三田朝義

常務理事 足立泰二（総務総括）

小股憲明（会計総括）

金井一弘（星湖舎社長・OMUP編集長）

中井孝章（大阪市立大学文系企画・編集担当）

平澤栄次（大阪市立大学理系企画・編集担当）

竹安数博（大阪府立大学文系企画・編集担当）

内藤裕義（大阪府立大学理系企画・編集担当）

理 事 湯浅 勲

石井 実

八木孝司

北村 肇

高辻功一

円藤吟史

沼田英治

監 事 田畑理一

山本浩二

（参考）

事 務 局 児玉倫子

編 集 局 木和田志乃

HP業務 吉富賢太郎

4. 業務契約等について

事務センターの電話秘書業務、杉本会計事務所の会計顧問契約、吉富賢太郎氏とのHPの維持・管理契約、事務局児玉倫子氏との契約は従来通り継続する。編集業務を強化するため、木和田志乃氏に責任編集業務を委託する。

5. 役員の報酬について

総務総括常務理事は毎週2回出勤の体制であるため、毎月3万円の報酬を支払った。会計総括常務理事については、年度末に理事長が適当と認める報酬を支払うこととして、その額については新年度総会に報告することとなっている。前年度は赤字決算であることから報酬は支払わなかったが、今期は黒字決算となったため年額36万円を支払ったことが報告された。

6. 定款変更手続き完了の報告

前年度総会において、定款における総会の成立条件が、正会員の過半数の出席（委任状を含む）となっている点を、「地域外に居住する正会員が増え、繁忙であって総会出席を困難とする者が多いため」、正会員の1/3又は1/4と改める定款変更が議決された。それを受けて、監督庁である堺市とも協議の上、総会の成立条件を正会員1/4以上の出席と改める定款変更の手続きを平成22年12月に行ったことを報告した。

以 上

第22回 OMUPサロン 盛会のうちに終わる

当大阪公立大学共同出版会（OMUP）恒例のOMUPサロンは今第22回から新しい試みとして、ジュンク堂書店難波店主催の『JUNKU難波トーク・セッション』と共催する形で平成23年5月21日（土）PM3：00～5：00に開催した。

今般の東日本大震災にともなう福島第一原発事故に関連し

新刊書の紹介



De la rhétorique contrastive à la linguistique textuelle
: L'organisation textuelle du français et du japonais
高垣 由美 著

言語学の立場からテキスト構成の問題に野心的なアプローチした日仏対照研究。ルーアン、ル・アーヴル両大学出版との共同出版で日仏同時発売

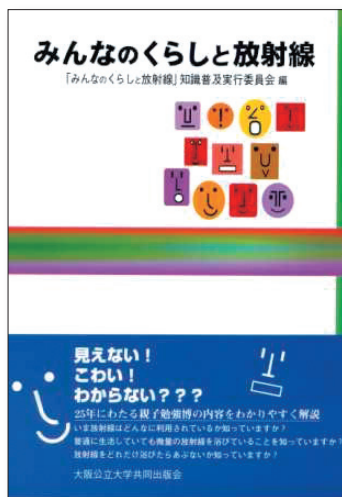
ISBN978-4-901409-76-6 C3085
A5判、並製本、259頁
定価：本体価格5,400円＋税



創作の魔術師 トニ・モリスン
奥野みち子 著

ノーベル賞受賞女流作家であるモリスンの作品にみられる古典との関係を分析し、考察を加えたものの。

ISBN978-4-901409-77-3 C3098
A5判、上製本、196頁
定価：本体価格2,400円＋税



て、購入依頼が急増し、緊急増刷した「みんなのくらしと放射線」の著者である八木孝司、児玉靖司両先生に、科学データをもとに低線量放射線の健康への影響について、演題「東日本大震災による原発事故と放射線の健康影響—科学的データから読み解く放射線の健康影響—」を熱っぽく語っていただきました。ジュンク堂難波店3階カウンター横の前特設会場が満

員になるほどの盛会でした。

始めに、八木先生が「みんなのくらしと放射線」本の出版に至るいきさつと概要についてご説明いただいた。引き続き、児玉先生が大変分かりやすく、しかも問題点も絞ったアップ・トゥー・デートな話題を戴いた。風評被害等の質問にも科学的データに基づいた説明には参加者一同感銘、しかも「ナットク」。そのあと場所を移し、ナンバ・ウォークのベルギービアクレーで両先生を囲む懇談会に切り変えたサロンを終えた。(文責：足立)



自著を語る (4)

「文物の儀ここに備われり 日本文明の源流を探る」の執筆動機

児玉 典弥



私は理科系の人間で、大阪府立大学で40年間、化学反応の反応機構や反応速度の理論的研究に従事し、「物理化学」を講じて来た。また、定年退職後、8年間大阪府立工業高等専門学校で「物理化学」を教えてきた。

71歳に至り余暇が生じたので、「理科ばなれ」して、若いころから興味を持っていた日本人のルーツや古代日本の成り立ちを調べる事にした。そのため、日本や中国の古代史資料および日本の考古学的発掘調査資料について勉強した。その結果、日本の古代国家の成り立ちや歴史と共に「日本文明の源流」が、縄文遺跡の土の中から顔を表し始めた。そこで私

は歴史と表裏をなす文明の源流を探る事にした。

日本列島に約2万年前から人類が住み始めた。その縄文人が世界最古の縄文土器や漆工芸品、世界にさがけたアスファルトの利用、黒曜石から多くの石刃(ナイフ)をとり出す石刃技法、極めて硬い硬玉翡翠の加工や大型木造建造物などの開発が始まった。

2900年前頃の弥生早期に金属器や硬質の弥生土器と共に水田稲作文化を携えた弥生人が九州北部に渡来してきたが、数百年を経ずして水田稲作文化が津軽海峡に達した。また、関東最古の水田稲作遺跡である中里遺跡から大量の縄文遺物に混じって少量の弥生遺物が発見されたが、戦闘の痕跡は発見されなかった。これは縄文人が寛容で物事の本質を見抜く聡明な人種で、弥生人のもつ文化を有用と見て、弥生人を排除するより友好的に受け入れ、その普及に協力したからと思われる。現在の日本で作られている温帯ジャポニカ米は熱帯と日照と水分を好む植物で、長江下流域から弥生人と共に北九州に渡来して来た。それにも拘わらず、現在の日本語は江南系の中国語ではなく、縄文系のウラル・アルタイ語である。これは縄文人が主導権をとりつつ弥生人に協力して水田稲作文化を広めたからと思わざるを得ない。

コメはまた優れた主食であったため、弥生時代から江戸期まで、日本では農(水田稲作)は天下(国家)の大本(基幹産業)であるとして、政治と経済は勿論、日本人の自然観と宗教、労働観と倫理観などの文化が水田稲作文化を中心に発展するようになった。

その後ユーラシア各地の文明が古代から断続的に日本に伝来していたが、奈良・平安朝以降、大陸の文明を国家の総力を挙げて吸収しようとした。それは中国文明、インド仏教、西域(エジプト・ペルシャ)文化などである。また、それに触発されて、縄文以来の日本固有の文明も熟成して来た。

今から1300年前、完成したばかりの藤原京の大極殿の閤門前の広場で701年の元日朝賀の儀式が盛大に行われた。その盛事を『続日本紀』は「文物の儀ここに備われり」と誇らしげに内外に宣言している。

この背景には「壬申の乱」後の天武天皇の治世下で、「日本」の国



ISBN978-4-86372-016-9 C0021

平成22年12月 星湖舎刊

定価：本体600円＋税

名や「天皇」の呼称、『万葉集』、『古事記』、『日本書紀』の編集、本格的な首都の建設、「律令制」の完成を目前に、文物が整った事を誇らしげに内外に宣言したものである。日本国はこのような節目を何度も迎えながら発展してきたものである。

この『続日本紀』の編集者の「文物の儀ここに備われり」の熱き思いが消し難く現在の私の胸に響いてきたので、あえて本書の表題として借用させて頂いた。

しかし、それでは本書の内容が明らかでないので、副題として「日本文明の源流を探る」をつけた。なお、有史以前の文明は全て土の中から出てきた縄文の遺物や遺跡から手探りで推定したものであるから、あえて「源流を探る」とした。

日本列島は温暖・多雨で、古代より海の幸・山の幸に恵まれてきた。また、極東の島国のためか、外敵の侵入も少なく、日本には1万有余年の長大で、平和な時間が流れた。そのため、日本固有の文明と外来の文明とが混成し、日本独自の文明が熟成した。また、明治以後に吸収した西欧文明を含めると、これほど普遍的で寛容な文明は世界に類例がない。

文明とは水が低きに流れる如く、互いに有益な文明を利用しあえば良いわけで、本来文明どうしが衝突する謂れはなく、共存しかない。

これから世にでようとする日本の若者はこの優れた日本の文明を心に収め、志を立て、誇りを持って海外に雄飛して頂きたい。その願いから、本書の出版をあえて決意した次第である。

「環境容量からみた日本の未来可能性」

—低炭素・低リスク社会への47都道府県3D-GIS MAP—

英名：GIS Map Book for Japanese Futurability



大西 文秀

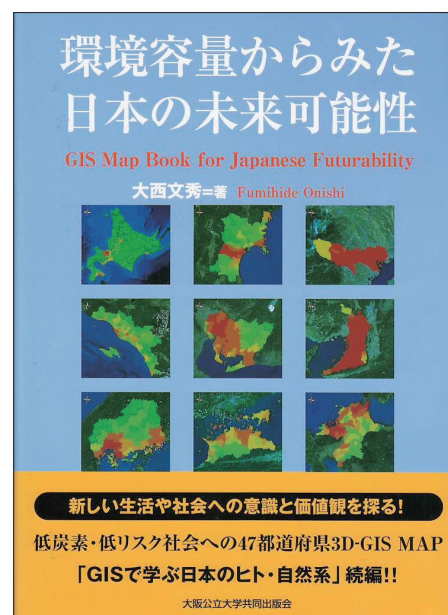
(竹中工務店プロジェクト開発推進本部勤務、大阪府立大学博士(学術))

学生時代から山や川が好きで自然の中へよく出かけたことや、人と自然の関係を大切にしようと言われた時代であったことか

ら、卒論や修論のテーマに、ヒトと自然の関係を複数の指標を設定し総合的な環境容量として捉えだしたのが始まりでした。それから35年余り経ち、環境容量が持つ意味が再認識されようとしています。半世紀近く前に誕生したこの概念は、地球の環境や資源、そして災害問題を抱え、私たちの生活や社会、また政策などに対する意識や価値観の変換が求められる現代に於いて、その有効性や重要性が再認識されつつあります。まさに、未来可能性を高めるためのキーワードになろうとしています。

OMUPのニュースレター19号で、上田純一大阪府立大学教授による書評により紹介して頂いた前著『GISで学ぶ日本のヒト・自然系』では、ヒトと自然の関係を、ヒト・自然系と呼びそのバランスを環境容量として捉えています。日本の包括的な環境容量を5つのエコモデルを用い、流域、自治体、都道府県、地方区分の4階層の空間単位で試算し、わが国のヒトと自然の関係を探り明らかにしています。また、環境が変動する舞台裏に注目し、その実態や要因を探りました。この結果、次の時代を拓くライフスタイルや政策シナリオのあり方や、低炭素・低リスク社会への移行へのヒントを得ることができました。また、持続可能な土地利用や産業形態、就労形態の多様性、さらに、文化の多様性の重要性を知ることができました。

前著では地理情報システム(GIS)を活用した多くのマップを用い、わかりやすい編集を心がけました。お陰様で、新聞、学会誌、専門誌など



ISBN978-4-901409-83-4

平成23年7月

定価：本体2,800円＋税

新刊書の紹介



OMUPブックレット NO.30

創造経済と都市地域再生

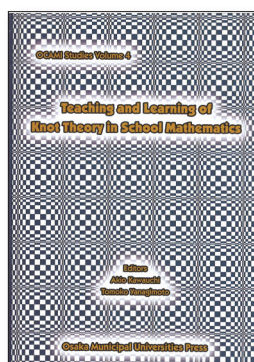
大阪市立大学大学院創造都市研究科 編

大阪市大大学院創造都市研究科の重点研究プロジェクトの理論的及び実践的検証を取りまとめたもの。

ISBN978-4-901409-80-3 C1333

A 5判、並製本、106頁

定価：本体価格800円＋税



OCAMI Studies Volume 4 Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics
数学研究会 編

「結び目理論」の教え方と学び方を英文教科書として編纂したもので、国際評価の高いものに仕上がっている。

ISBN978-4-901409-79-7 C3041

B 5判、上製本、188頁

定価：本体価格6,500円＋税

で多くの先生方からの過分な書評を掲載して頂くことができました。これらの書評やみなさまのご意見から多くのことを学ぶことができ、更なる情報発信の必要性を感じるようになりました。

このたびOMUPの専務理事でおられる足立泰二大阪府立大学名誉教授のご指導により出版して頂きました『環境容量からみた日本の未来可能性』はその続編として編集を進めてきたものです。わが国の47都道府県を市区町村単位で、5つのエコモデル（CO₂固定容量、クーリング容量、生活容量、水資源容量、木材資源容量）と地理情報システム（GIS）を活用し、言わば地域の潜在性を3次元でのカラーマップにより表現した、低炭素・低リスク社会を推進するための環境ガイドブックです。各都道府県を見開きの2ページで見やすく構成しており、見過ごしがちな、住む地域の、環境や資源、そして災害などの包括的な潜在性について、GISマップやリスト、またレーダーチャートを活用し、オールカラーページで可視化した前著のマップデータ編といえます。

第1章では、時代特性をはじめ、本書の骨格となる11のキーワードを解説し、中心となる第2章では全国47都道府県の環境容量や地形、都市規模、水系などをビジュアルに紹介しています。また第3章の「未来可能性へのシミュレーション」では、未来可能性を高めるための提案や、人口の自然減少、CO₂排出量の削減、森林育成や地表形態の改善、さらに地方間での人口移動というシナリオをもとに定量的なシミュレーションを行い、わが国の未来への可能性を探っています。

また、序文「本書によせて」には、地理情報システム（GIS）の国際的なベンダーである米国Esri社社長のJack Dangermond博士から大変光栄な寄稿を頂き、これから人間社会や自然とのかかわりを考えていくうえでの貴重なメッセージが託されています。

環境計画や防災計画、またGISに携わる研究者や自治体の専門家の方々のみならず、全国のみなさまに、生活される市や町や村などのヒトと自然の関係を視覚的にご紹介でき、これから迎える時代の生活や社会のガイドブックとなり、より良い2050年のために、そして、明日の地球と子どもたちのために、少しでも新しい方向を示せ、お役に立つことを心より願っています。

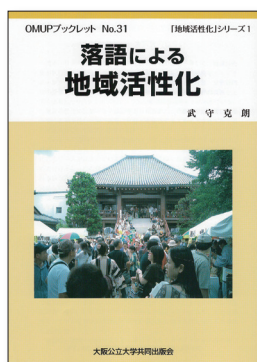
装いも新たにパンフレット「読ン得本々」の刊行!!



読書離れのすすむ若い人たちに本の魅力を伝え、人生を変える一冊の本を探して欲しいとのメッセージをこめて、2004年に創刊したパンフレット「OMUP会員が新入生にすすめる本」は「OMUP会員が新入生・在学生にすすめる本」へと変遷し、昨年一年の休刊期間を置いて、本年は大阪府

立大学図書館委員会との連携のもと、大阪府立大学学術情報センター・大阪府立大学生協・OMUP三者の共同企画/制作になる小冊子「読ン得本々 新入生に薦める100冊の本より」2011年版（頒価：100円）に装いを改めた。大阪府立大学の図書館部長中村洋一教授をはじめ、関係各位の一方ならぬご配慮・協働の賜物である。大阪府立大学の現役図書委員の教員の先生方から学生へのメッセージの書き添えられた数々の本を推薦頂いた。巻頭には図書館部長 中村洋一先生の「本との出会い～知る喜び・分かる喜び・感じる喜び～」のことがばがある。16名の構成学部・研究科から選ばれた委員の推薦された100冊以上の本、ISBN番号、出版社名、定価も付された推薦文は、各先生の個性と学生に寄せる期待の気持ちがにじみ出ていると言ってよさそう。すでに新学期早々には、図書館（学術情報センター）入口に推薦された本が陳列され、入退館の際には学生が入手できるように配慮された。また、5月中旬からは大学生協書籍部では推薦図書の一部を取り寄せ、学生が購入できるようフェアが持たれた。さらには、今期読書の秋にはOMUP刊行物も含めたブックフェアを計画

新刊書の紹介



OMUPブックレット No.31 落語による地域活性化 武守 克朗 著

日本古来の地域文化とも言える「落語」を活用して地域活性化の取り組み事例を紹介している。

ISBN978-4-901409-81-0 C1333

A 5判、並製本、94頁

定価：本体価格800円＋税



OMUPブックレット No.32 ソーシャル・キャピタルと大学の地域貢献 久木元 秀平 著

人と人との間にある信頼やネットワーク、互酬性の規範などから構成される、目に見えない資本としてのソーシャル・キャピタルを大学の地域貢献活動に適用と考察を加えた。

ISBN978-4-901409-82-7 C1333

A 5判、並製本、79頁

定価：本体価格800円＋税

しており、学生諸君が購入し、書評・読書感想文応募の優秀者にはOMUPが図書カードをプレゼントすることになっている。これらは広い意味でNPO法人としての大阪公立大学共同出版会の活動のひとつとして公益事業を拡充していきたいものである。会員の皆さまの一読をお奨めし、忌憚ないご意見を賜れば幸いである。

なお、「OMUP会員がすすめる本」には、市大、府大の先生方がご執筆頂きましたが、今般は府立大学の図書委員の先生方に限りましたので、来年は私立大学の先生方に働きかけて市大らしい「読書のすすめ」をご提案しようと思っております。(文責 足立泰二)

第23回 OMUPサロンのお知らせ

前回に引き続き、JUNKU難波トーク セッションとの共催により、下記日程で、第23回OMUPサロンを開催いたします。今般、OMUPから大西文秀著「環境容量からみた日本の未来可能性」の出版をお祝いし、広く著者の思いを語っていただくというものですので、お繰り合わせの上、ご出席をいただきますようお知らせいたします。なお、会員である大阪府立大学の難波利幸先生にはご専門と関連して対話形式で討論に加わっていただくことになっておりますのでご期待下さい。

記

日時：2011年10月8日(土)

15:00～17:00(その後場所を変えて懇談会、会費2～3,000円程度、一般参加者歓迎)

場所：ジュンク堂書店 難波店 3階カウンター前特設会場
大阪市浪速区湊町1丁目2-3 マルイト難波ビル
TEL 06-4396-4771

演題：3D-GISデータから読み取る「環境容量」マップ
—日本の未来を「環境容量」から語る—(仮題)

演者：難波 利幸氏(大阪府立大学大学院理学研究科教授)
大西 文秀氏(株式会社 竹中工務店プロジェクト開発推進本部)

「GISで学ぶ日本のヒト・自然系」(2009、弘文堂)の続編とも言える、大西文秀氏渾身の本著作は、より明快に、より分かりやすく、現在、近未来の日本が直面する新しい生活や社会への意識と価値観を提示する。今回は大阪府立大学が誇る、数理生物学者 難波利幸教授と共に「3D-GISの手法」とは何か、「環境容量」から何が見えるのか、47都道府県の実環境容量の現状から、日本の未来可能性(Futurability)について語り合う。

電子書籍時代の学術出版のススメ

一般社団法人大学出版部協会発行 雑誌『大学出版』No. 87. 2011年8*夏号に大学学術出版に関する、次のような「出版文化の発信」特集として、『インタビュー 津軽から、大志を抱いて 弘前大学・遠藤正彦学長に聞く』、『本の学校について語ろう』、『私たちはここで本を出し続ける』、『未来の主人公のために、本はつくられる』など、興味深い記事が見られる。会員の皆さんに一読をお奨めしたい。

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
- (2) 会員の学術図書の刊行頒布
- (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

などを行なっているNPO法人です。参加を希望される方は下記事務局へお問い合わせください。

599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：http://www.omup.jp/

入会金：一口一万円(終身会費)

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

3.11の東日本大地震、それに起因する津波によって生じた福島原子力発電所の大人災から半年になろうとする。遅ればせながら、被災された方々に深く哀悼の意を表するとともに、今なお多くのことでお苦しみお悩みの皆さまにお見舞い申し上げたい。学術に関連した本造りに関係するものとして、改めて出版媒体を通じて科学的真実を社会に普及・貢献することの大切さを痛感する。OMUPから出版している「みんなのくらしと放射線」本が3月を機に注文が相次ぎ、4月、5月と2回にわたって増刷をした。分かりやすい内容と好評を博し、本号でも報告したように、第22回OMUPサロン(JUNKU難波トーク・セッションと共催)の著者である八木孝司、児玉靖司両教授に時宜を得た話題をご提供頂いた。盛会のうちに終えることが出来た。なお、増刷の純益は、著者の了解を得た上で、被災者への義援金として申し出ることも認められ、ささやかながら、学術出版社としての志とした。

本号のニュースレターは、諸般の理由から難産だったが、次号からは会員の皆様と意思を共有し合い、コラムを設けるなどして出版事業へのご提案・ご意見を頂き、OMUP活動に繋げたいものである。参考までに大学出版部協会発行の雑誌「大学出版 大学と社会を結ぶ知のネットワーク」No. 87、2011年夏号に4編の特集記事を紹介した。(TA)